

2026年1月5日

日東紡

2026年（令和8年）年頭社長挨拶（要旨）

日東紡 取締役代表執行役社長 多田弘行の年頭挨拶（要旨）を以下の通りお知らせします。

昨年は当社にとって重要な一年でした。2024年度の決算においては101年の歴史において最高の営業利益となる164億円を達成し、売上高は1,090億円と18年ぶりに1,000億円を回復することとなりました。為替の追い風はあるものの、その要素を除いても中期経営計画に対してオンタイムで進んでいることが確認できます。また、建屋新築を伴う国内生産設備の増強として、福島事業センターでの新処理棟の建設を決断して進めています。1990年代の紡績縮小、2000年代の建材事業からの撤退といった事業規模縮小の流れをようやく反転させることができました。これらは全て、厳しい時代にも歯を食いしばって未来への種をまき続けた先人たちの地道な努力と、現従業員の方々の勤労の賜物です。

地政学的にみると世界情勢は決して明るいものではありませんが、当社としては電子材料の分野での追い風をしっかり受け止めて収益を向上させ、そこで得た利益を電子材料以外にも投資することで、次なる収益の柱を育てるという好循環を回していく必要があります。このチャンスを逃さぬように全従業員アンテナを高くして、次の育てるべき木の種を見つける不断の取り組みが重要です。

現中期経営計画はこの春で折り返しを迎えますが、足元の状況を踏まえたくえで見直すべきところは見直す予定です。もちろんスタート時にやろうとした行動目標には拘りますが、新たな目標の設定も必要です。

このような前向きな事業環境の中で、私が危惧している点について述べます。

業績が好調な中で仕事をしていると、その流れに乗っているだけで自分も成長していく錯覚に陥るかもしれませんが、自己研鑽を怠ってはい決して成長はしません。そして会社はいつまでも好調なはずはなく、必ず踊り場がやってきます。その際に会社をもう一度山へ押し上げる人財がいなければ会社はまた縮小への道をたどります。逆に大勢の人財が押し上げれば、会社はそれ以前より高い場所に行けるでしょう。そして会社を押し上げる側の従業員でなければ、重荷として置いて行かれかねません。

ぜひ今年も健全な危機意識を持ち、どん欲に成果と収益を求め、一人ひとりの従業員も会社も成長する一年でありたいと思います。

そして何よりも安全衛生には細心の注意を払っていただき、ゼロ災で事業を継続できますよう、全従業員で心がけていきましょう。

以上